



親の会だより

第82号平成27年12月 発行

東大阪市手をつなぐ親の会
(年 3回)

(題字 吉岡名誉顧問)

「障害者差別解消法がめざすもの」

会長 坂本 ヒロ子

いよいよ本年4月、障害者差別解消法が施行されます。これは、平成23年障害者基本法に「差別の禁止」が基本原則と規定され、平成25年6月に制定され、施行のための準備が大阪府・東大阪市においても進んでおります。

大阪府においては、～障がいを理由とする差別のない共に生きる大阪のまちをめざして～「大阪府障がい者差別解消ガイドライン」を平成27年3月に策定公表し、それによる啓発活動と平成28年3月策定予定している「大阪府における障がい者差別の解消の推進に関する条例」(相談・紛争の防止・解決の体制整備等)を両輪として差別解消に取り組むとされています。

東大阪市においては、～お互いの個性を尊重し、安心して自立した生活のできる完全参加と平等のまち・東大阪の実現をめざして～「東大阪市における障害者差別解消相談対応ガイドライン」を平成28年3月策定予定しており、身近なところでの相談体制を整備し、府と連携しながら差別解消に取り組むとされています。

この障害者差別解消法が来年4月に施行されることにより、地域で生活する時、いやな思いをしたことのある障害のある人、その家族はどのように変わるのか期待もし、気になるころだと思えます。

障害のある人が差別をうけた、またいやな思いをすることの原因に障害・障害者のことを知らないから、わからないから起きることが多く、解消するためには、お互いが話し合っ理解しあうことが何より大切です。

障害のある人のことだけでなく、それぞれの人がお互いの立場にたって考えあうことが、すべての人にとって暮らしやすい町になると思われます。

行政、当事者団体、一人の親がそれぞれの立場でそのような社会になることをめざしてこの法律を育てていけたらと思えます。

「我が子は かけがえのない存在！」

小尾さんは、『知的障害の人の立場にたって、様々なことを考えていくことが、そのことを通して、みんなが生きやすい社会になるのです。』私たちの子どもは、『今の社会にとって、かけがえのない存在です。』と話してくださいました。

この視点に立って、制度・政策論、育成会の運動論についての小尾さんの話でした。

制度・政策については、平成2年よりの制度・政策の大きな流れの説明がありました。

平成2年 ① (入所)施設から 地域へ <在宅サービスを法定化>

平成7年 ② 官による福祉から 新しい公共へ <社会に開き、みんなのために>

平成12年 ③ 措置から 契約利用へ <利用者本位の仕組みへ>

平成17年 ④ 対処療法から 計画実施へ <障害福祉・個別福祉・サービス利用計画>

平成22年 ⑤ 手帳認定から ニーズ中心に<生活ニーズのあるところにサービスを>

平成26年 ⑥ 1975 権利宣言から 2006 権利条約(法整備)へ <消費税?>

⑦ 一般財源から 財源の社会化へ

⑧ 自己選択から 最善の選択へ

年度をたどると、5年刻みの変化であること、次の5年後は?、次の10年後は?については、上記の⑦・⑧に注目すべきことと話されました。

そして、より身近なこととして、

『今どきの障害福祉をとらえる5つのキーワード』の話がありました。

- 1、「点検」障害者の権利条約(批准後の政府報告書提出のための点検作業)
- 2、「準備」障害者差別解消法(2016年4月施行にむけての準備)
- 3、「見直し」障害者総合福祉法(2013年4月施行で3年後の見直しの作業。3回議論を経て、年内に見直し(案)が出る。この法律をもとにサービス・支援が決定)
- 4、「改正」改正社会福祉法(法人で運営。改正の準備。改正されると環境が大きく変化)
- 5、「利活用」社会保障・税番号制度(マイナンバー)(2016年1月施行。マイナンバーを知ることが出来るのは、本人・家族・成年後見人のみ。国は自分で自分のことが出来るという前提で話を進めている。知的障害の人・認知症の人など 自己管理できない人のための支援が考えられていない。等問題・課題が山積。)

5つのキーワードを通して、コンパクトに それでいて明快に これからの障害福祉について話されました。2016年がどのような年になるのか、知的障害者が排除されないことがないように監視することが必要ですとも言われています。

ともすれば、難しい話は苦手と思って、避けて通りがちです。でも我が子のためには関心を寄せ続けたいですね。頼りになるのは、「手をつなぐ」「太陽の子」です。積読しておくにはもったいない冊子です。丁寧に読みたいものです。はじめは睡眠剤になったとしても 読み続けることで、関心を寄せるページに出会うかもしれません。

育成会の運動論としては、大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふるむわん＝つな good 計画」— みんなが みんなと みんなへ 「手をつなぐ」— の中に書かれている重点分野としての6つの支援について話されました。10年間で実現することをめざしての取り組みです。

- ① **安心安全の地域生活支援**・地域生活を支える拠点としての「地域生活支援拠点」の構想が国で進められている。この事業を育成会でも自治体と協力しつつ整備していく。
- ② **働くことの質をささえる就労支援**・障害者の法定雇用率の引き上げだけでなく、仕事内容や待遇など働くことの質を支える就労支援に力点を置く。＜就労支援 A 型の事業所の問題や課題。＞
- ③ **豊かな感動を生む芸術やスポーツへの支援**・＜2020年の東京パラリンピック。リオの後の4年間でパラリンピックとして大切。＞
- ④ **周囲の人々に適切に理解される家族支援**・国連の「権利に関する条約」は家族を含む権利条約と理解し、家族支援としてのプログラムや制度化を進める。
- ⑤ **具体的で実効性のある意思決定支援**・意思決定支援なくして障害者の支援はできない。しかしながら具体的な手法は明確でなく、その実効性を認める手法や制度の確立が必要。＜普段の意思決定支援のわかるノートづくりを。（記録化された・見える化されたものを。—いろいろな人にバトンしていけるもの—。）障害者に配慮したテレビ情報の提供（ルビを打つ・分かち書き・簡単な音声で等）を小尾さんが「IPTV によるアクセシビリティ向上への知的障害者からの期待」と題して、国際会議でのシンポジウムでお披露目。育成会運動は、国のみならず世界へ発信＞
- ⑥ **人としての生活を保障する所得保障支援**・就労支援の他、減免制度や障害基礎年金・障害者手当などの所得保障支援に引き続き取り組む。＜今子どもが手にしている障害基礎年金は、育成会の運動で勝ち得たものだそうです。＞

障害の状況にかかわらず、一人ひとりを大切にすることからはじまる育成会の活動や事業は、私たちにとって、力強い育成会の取り組みです。小尾さんの話を聞くにつけ、育成会として 誰もが 安心・安全な生活を送ることが出来る共生社会の実現に向けて取り組みが進んできました。改めて 育成会の存在の大きさを思い、誰かに託すだけではなく、私たち一人ひとりができることは何かを考え、今できることを行動に移すことが大切ではないかと思いました。

「手をつないで」小さな一歩を踏み出しましょう！

大阪手をつなぐ育成会 小尾局長の『わが子のために知っておくためになる・知っておきたい障害福祉のこれから』のタイトル通りの話となりました。

原田 二三恵(とうふく保護者)

保護者会があるからこそその活動

加納 佳子(第二東福保護者)

今年の第二東福の活動は、「保護者会があるからこそその活動をしよう」という事になりました。そこで、「おかあちゃんカフェ」と「クリスマス会をみんなで盛り上げよう」と2つの目標ができました。

「おかあちゃんカフェ」は、やまなみプラザまでウォーキングして来た利用者さん達が、保護者の手作りおやつを食べて帰る企画ですが、お母さんの亡くなられた方が、ふと、お母さんを思い出せる様な手作りおやつを作る事をモットーとしています。

「クリスマス会」は、実行委員会を開く度にドンドン保護者の皆さんの団結力がアップし、今まで長く活動をなさってきたお母さん方の底力を知りました。委員長の私の仕事は、交通整理のみです。

具体的には、以下のとおりです。

① 太りすぎ対策の河内音頭

「河内音頭」をしようという事になった時、「Nさんが踊っていた。」の一言で、一週間で、楠先生(地域の方)が、当日指導しに来て頂ける事になりました。

② ボッチャゲームの検討

私が、他の所を見た「知的がい者でも分かりやすいボッチャの的シート」の事をMさんに話すと、すぐにデザイン性の高い「的シート」を考えてくださり、皆で作りました。その後、ゲームのルール作りの時、Tさんが、「子供達のようにプレーしないとダメだよ。」と。おかげで、良いルールが出来ました。(この時の予想プレーどおりの事を利用者さんがやっていたので、笑いをこらえるのが大変でした。)

このボッチャゲームは、事業所の活動に利用されています。

③ たすき作り

たすきは、ボッチャゲームの時、チームが分かるように目印として使用。Fさんが、「みんな違うところが過敏だから、ハチマキにもタスキにもネクタイにもなる紐型が良い。」と。この事を職員さんに伝えると「この様な発想が大切ですね。」と、支援の「キズキ」になった様です。

その他、委員会前の弁当タイムも、選択メニューを増やしてくれたUさん、百均のサンタ服をオシャレにして着ていたKさん、その他沢山の事があり、こんな保護者自身も楽しもうとする雰囲気、ますます、団結力をアップしました。当日は、昭和時代の街角の集まりのようなホンワカした温かい雰囲気がありました。

最後の万歳三唱は、びっくりするほど、みんなの息が合い、一体感が感じられ、みんなが気持ち良く終わる事が出来ました。「一体感」って、快適ですね。これからも、みんなで、グレードアップしていきます。

最後に、このクリスマス会の再開と盛り上げていく事を、一番に望んでおられた巽前会長のご冥福をお祈りします。